

# トマト黄化葉巻病について

平成17年12月に府南部の施設栽培トマトでトマト黄化葉巻病が発生しました。

この病気は農薬による媒介虫の防除のほか、防虫ネットや天敵などによる総合的な対策を早期に行わないと、収穫皆無になる恐れがあります。



平成18年3月  
京都府病虫害防除所

## トマト黄化葉巻病の特徴

- ◆ トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV:Tomato yellow leaf curl virus)の感染によって引き起こされる病気です。
  - ◆ 先端の葉が葉縁から黄化し、葉が表側に巻いて縮葉します。
- 類似の症状  
鉄欠乏症 :上位葉の葉脈間の淡緑化、葉全体の白黄化。  
カルシウム欠乏症 葉の先端部の黄化、果実の尻腐れ。
- ◆ トマト、ミニトマト、トルコギキョウで発病します。
  - ◆ 生育初期に発病すると節間短縮による萎縮や開花後の落花などの症状を示します。



### トマト黄化葉巻ウイルスの伝染方法

シルバーリーフコナジラミが媒介します。

シルバーリーフコナジラミがトマト黄化葉巻ウイルスに感染した植物を吸汁することでウイルスを獲得し、伝染能力を生涯持ち続けます。

種子伝染、土壌伝染、汁液伝染はしません。

## トマト黄化葉巻病の媒介虫



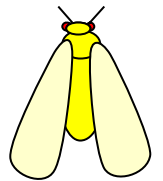
シルバーリーフコナジラミ

- シルバーリーフコナジラミが病気を媒介します。
  - 成虫は翅を45度にたたんで葉に止まります。(オンシツコナジラミは水平)
  - 翅の間は少し開き、翅の後ろは重なりません。
  - 幼虫や蛹は黄色です。野外では越冬しません。(オンシツコナジラミは白色)
  - トマト、ナス、キュウリ等の作物のほか、雑草にも寄生します。
- オンシツコナジラミは、この病気を媒介しません。

# トマト黄化葉巻病の防除対策

## 苗からの持込防止

- 1 先端部の葉が巻いているもの、葉縁が黄化しているもの、株が萎縮しているものは植えつけないようにします。
- 2 コナジラミが寄生していないか確認します。



## 抜き取り

発病株は伝染源となります。疑わしい株は、見つけ次第抜き取り、土中に埋めるか、ビニル袋などで密封して枯死させてから処分します。

また、野良ばえトマトも重要な伝染源となりますので、自生したトマトは除去します。

## 侵入防止

- 1 開口部(サイド、出入口、天窗等)すべてを0.4mm目合いの防虫ネットで被覆します。
- 2 出入口は二重に被覆します。
- 3 黄色粘着ロールをハウス周囲及び開口部に展張します。
- 4 近紫外線カットフィルムを使用します。

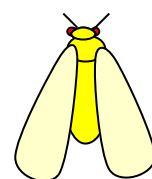


黄色粘着ロールの展張

マルハナバチや天敵類の活動には影響しません。  
ただし、トマトの生育が徒長気味になるので、肥培、水分管理に注意します。  
なお、ハウス内に定着したコナジラミの増殖抑制効果はありません。

## 徹底防除

- 1 育苗期及び発生初期の防除を徹底します。
- 2 薬剤で防除する場合は、葉裏までていねいに散布します。
- 3 同一系統の薬剤の連用は薬剤感受性の低下につながるため、ローテーション防除を実施します。
- 4 黄色粘着ロールをハウス内に展張します。
- 5 天敵、微生物農薬を有効利用します。
- 6 ラノーテープを使用する場合は、定植直後から使用します。
- 7 黄色粘着板を吊り下げて、コナジラミの発生を把握します。



疑わしい症状を認めたら、病害虫防除所又は最寄りの農業改良普及センターにご連絡ください。

### 農業改良普及センター 電話番号一覧

・ 京都乙訓農業改良普及センター	0 7 5 - 3 1 5 - 2 9 0 6
・ 山 城 北農業改良普及センター	0 7 7 4 - 6 2 - 8 6 8 6
・ 山 城 南農業改良普及センター	0 7 7 4 - 7 2 - 0 2 3 7
・ 南 丹農業改良普及センター	0 7 7 1 - 6 2 - 0 6 6 5
・ 中 丹 東農業改良普及センター	0 7 7 3 - 4 2 - 2 2 5 5
・ 中 丹 西農業改良普及センター	0 7 7 3 - 2 2 - 4 9 0 1
・ 丹 後農業改良普及センター	0 7 7 2 - 6 2 - 4 3 0 8

お問合せは京都府病害虫防除所まで

TEL 0771-23-9512